

(目標1)生涯を通じた歯と口腔の健康づくりの推進

- 歯と口腔の健康が全身の健康に繋がる重要性について都民の意識を高め、都民自ら口腔ケア等に取り組むよう普及啓発を推進する。
- う蝕予防や口腔機能支援を通じた子育て支援や食育支援の推進する。
- 学齢期のう蝕予防・歯周炎予防、若い世代の歯周病予防の取組を推進する。
- 高齢になっても食事や会話を楽しむことができる歯と口腔機能の維持を支援する。
- ★特に、18歳から30歳ごろまで(仮)の世代に向けて、ライフイベントに伴う環境の変化に着目した普及啓発に取り組む。

(目標2)かかりつけ歯科医の定着と医科歯科連携の推進

- 乳幼児期から生涯にわたるかかりつけ歯科医定着に向けた更なる普及啓発を推進する。
- 周術期における口腔合併症予防等に対する都民の理解向上と医科歯科連携を推進する。
- 糖尿病と歯周病の関係について都民の理解を深め、重症化予防などの観点から医科歯科連携を推進する。

(目標3)障害児(者)の歯と口腔の健康づくりの推進

- 身近な地域で障害児(者)が歯科健診や歯科医療が受けることができるよう、歯科医療従事者の育成を図る。
- 障害児(者)を支える施設職員や家族に対し、歯と口腔の健康づくりへの理解を深める取組を進める。
- 地域の歯科診療所・都立病院等と都立心身障害者口腔保健センターとの機能分担と連携を再検討する。

(目標4)在宅歯科医療体制の推進

- 住み慣れた地域で在宅療養を希望する患者に対し、在宅歯科医療が提供できるよう、歯科医療従事者の育成を図る。
- 地域での暮らしを支える多職種との連携を推進する。
- 多職種に対し、在宅療養患者の歯と口腔の健康づくりの大切さと口腔内の変化の気づき等についての普及啓発に取り組む。
- 歯科支援が必要な在宅療養患者や患者のニーズを把握し、支援につなげていく仕組みを構築していく。

想定される指標

8020を達成している都民の割合
55.5% → 増やす

- ・(乳幼児期)う蝕のない者の割合(3歳) 88.5% → 増やす
- ・(学齢期)う蝕のない者の割合(12歳)85.1% → 増やす
- ・(学齢期)歯肉の炎症所見を有する者(17歳)22.1% → 減らす
- ・(成人期)進行した歯肉の炎症所見を有する者(20歳代) 8.7% → 減らす
- ・(成人期)進行した歯肉の炎症所見を有する者(40歳代) 19.3% → 減らす
- ・(成人期)24歯以上有する者の割合(60歳) 70.0% → 増やす
- ・周術期口腔ケア応用コース研修受講修了者 602名 → 増やす
- ・糖尿病が歯周病のリスクであることを知っている者の割合(20歳以上) 49.7% → 増やす

- (障害児者)
障害者支援施設等での定期的な歯科検診実施率80.3% → 増やす
- (要介護者)
在宅歯科医療に取り組む歯科診療所 13.5% → 増やす